

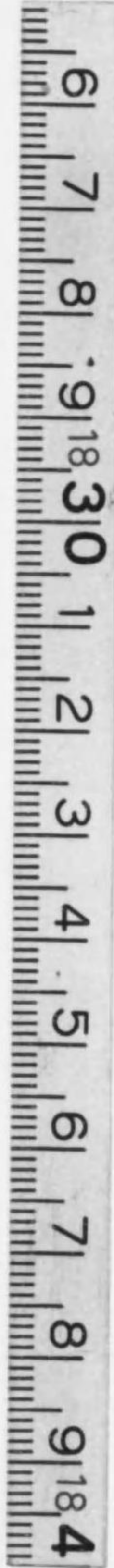
特 248

234

業務功程報告

(昭和四年度)

静岡縣立沼津種畜場



始



昭和四年度業務功程報告

目次

第一章 總說

一 沿革  
二 地位  
三 地積、營造物

四 現在場員

A 職員  
B 雇員  
C 備員

五 經費  
六 事業ノ概要

第二章 畜牛

一 種牛現在

A 現在種牛年齡別表  
1、成牛  
口、犢牛

B 現在種牛明細表  
1、種牡牛  
口、種牡候補牛  
八、種牝牛

二 畜牛ノ異動

A 生産  
B 購入

三 蕃殖成績

A 種付  
B 養生  
● 管理

四 飼養方法

A 飼養方法  
B 飼料標準  
C 犢哺育標準

五 牛乳

A 牛乳能力  
B 搾乳量

第三章 製酪

第四章 飼料分析試驗

第五章 農場

第六章 雜件

A 職員出張  
B 質疑應答  
C 來觀者

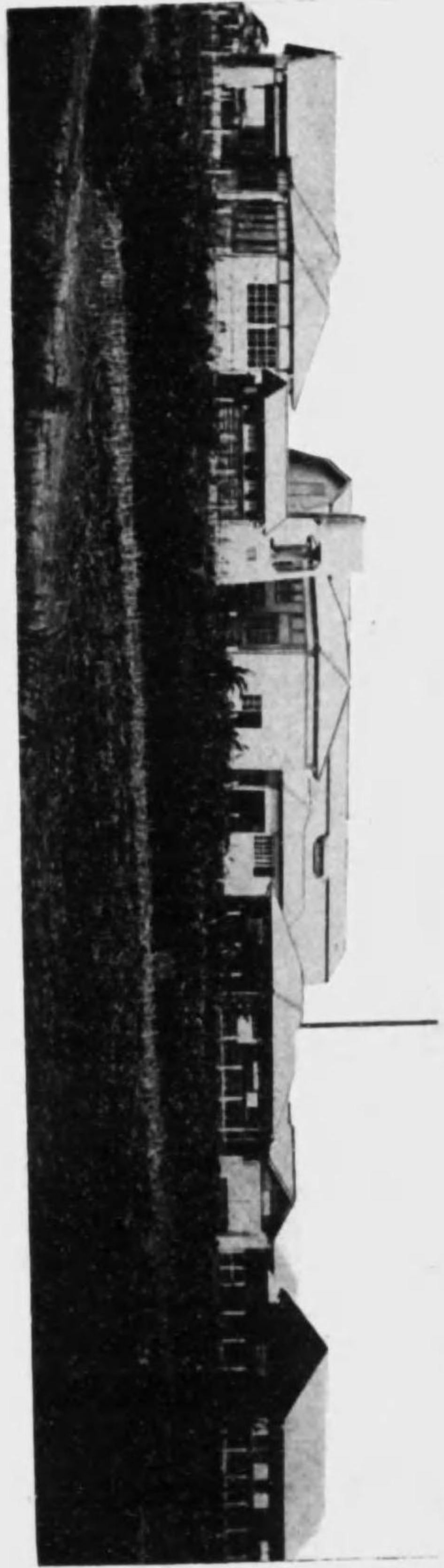
〔附錄〕

靜岡縣種畜種禽並種卵拂下規則  
靜岡縣種畜種付條例

特 248  
234



天覽 獸上牛



全 景

# 昭和四年度静岡縣立沼津種畜場業務功程報告

## 第一章 總說

### 一 沿革

大正十四年通常縣會ニ於テ滿場一致種畜場ノ設立ヲ決議シ爾來着々其ノ準備ニ努メ昭和四年一月現在ノ場所ヲトシ建築工事ニ着手シ同年三月三十日ヲ以テ開場セリ

### 二 位置

本場ハ沼津市三枚橋及駿東郡大岡村ノ兩地域ニ跨リ東海道線沼津驛ヲ東北ニ距ル約十五町、交通至ツテ便ナリ

### 三 地積、營造物

#### A 地積

當場ノ用地ハ總計九千坪ニシテ建物敷地二千四百坪、園圃千六百坪、内三千坪ハ飼料作物栽培地トナシ、他ヲ厩肥試驗地ニ充ツ



#### B 營造物

當場ノ營造物中主要ナルモノ次ノ如シ

事務所	名稱	棟數又ハ 箇所數	坪數	摘要
一			四四、〇二	應接室、陳列室、藥品室、當直室併設、木造スレート葺

小使室	一	一一、二五	木造スレート葺
牛舎	一	一〇二、五〇	牝牛室二、牝牛室一八、産室二、犢牛室三ニシテ外ニ調理室、根菜貯藏室、乾草置場等併設、木造スレート葺ニ階建コンクリート床
分析室	一	二〇、〇〇	講義室併設、木造スレート葺、電熱式装置ヲ備フ
便所	一	三、七五	木造スレート葺
製酪場	一	二一、〇〇	試験室、冷蔵室等併設、木造スレート葺ニ階建壁及床コンクリート電動力ニ依ル諸装置ヲ爲ス
牧夫舎、釜場	一	一八、〇〇	殺菌室、浴場、石炭庫等併設、木造スレート葺
收納舎、農具舎	一	二〇、〇〇	木造スレート葺コンクリート床
秤量場	一	三、〇〇	"
飼料倉庫	一	七、五〇	"
隔離舎	一	一五、〇〇	"
堆肥舎	一	一〇、五〇	"
牝牛運動場	一	一〇〇、〇〇	鐵柵
牝牛運動場	一	二六六、〇〇	"
舎宅	四		木造瓦葺平家 コンクリート造、地下式
サイロ	一		

四 現在場員  
A 職員

任命年月日	職名	氏名
昭和四年三月三十日	場方農林技師長	飯沼 實
昭和四年三月三十日	農林主事補	堤 不二雄
昭和四年三月三十日	農林技手	鈴木 市郎
昭和四年三月三十日	農林技手	高崎 良一

B 雇員

採用年月日	職名	氏名
昭和四年三月三十日	畜産助手	日置 儀夫

C 備員

採用年月日	備員名	氏名
昭和四年四月二十二日	牧夫	一見 梅一





ホルスタイン種	種	名	號	毛色	生年月日	産地	血	統
ホルスタイン種	種	名	號	毛色	生年月日	産地	血	統
計								

B 現在種牛明細表

(イ) 種牝牛

ホルスタイン種	種	名	號	毛色	生年月日	産地	血	統
ホルスタイン種	種	名	號	毛色	生年月日	産地	血	統

(ロ) 種牡候補牛

ホルスタイン種	種	名	號	毛色	生年月日	産地	血	統
ホルスタイン種	種	名	號	毛色	生年月日	産地	血	統
ホルスタイン種	種	名	號	毛色	生年月日	産地	血	統

(ハ) 種牝牛

ホルスタイン種	種	名	號	毛色	生年月日	産地	血	統
ホルスタイン種	種	名	號	毛色	生年月日	産地	血	統
ホルスタイン種	種	名	號	毛色	生年月日	産地	血	統
ホルスタイン種	種	名	號	毛色	生年月日	産地	血	統
ホルスタイン種	種	名	號	毛色	生年月日	産地	血	統
ホルスタイン種	種	名	號	毛色	生年月日	産地	血	統
ホルスタイン種	種	名	號	毛色	生年月日	産地	血	統

(ニ) 種牝牛

ホルスタイン種	種	名	號	毛色	生年月日	産地	血	統
ホルスタイン種	種	名	號	毛色	生年月日	産地	血	統
ホルスタイン種	種	名	號	毛色	生年月日	産地	血	統





ホルスタイン種  
コロニーワイン  
マシキンレイカナリ  
北  
昭和三年十月十一日  
加奈陀コロシヤ州  
州立コロニーファーム

三 蕃 殖 成 績

A 種 付

年度内ニ於テ當場種牡牛ノ種付セル牝牛頭數ハ場内ノモノ三頭民有ノモノ四頭計七頭ニシテ餘勢種付狀況次表ノ如シ

供用種牡牛名號	民有種付牝牛種類	八月	九月	一月	二月	計
フアローツチ ビーブ シーブ シージス	ホ ル ス タ イ ン 種	一	一	一	一	四
計		一	一	一	一	四

B 生 産

年度内ニ於テ當場種牝牛ノ生産シタルモノ三頭、其ノ成績次表ノ如シ

種付種牡牛名號	種 牝 牛 名 號	分娩年月日	性	備 考
フアローツチ ビーブ シージス	ホリウツド オーガスター	昭和四年 五月十五日	牝	
フアローツチ ビーブ シージス	フアローツチ ブイマンロツチ ベツレ	昭和四年 五月十五日	牝	双生仔
フアローツチ ビーブ シージス	フアローツチ ブイマンロツチ ベツレ	昭和四年 五月十五日	牝	當場開場前購入シ預託 中ニ管理者ノ種付シタルモノ
第十三バブ ストクリエ ター ビーブ	ホリウツド アリアナ	昭和四年 十一月二十三日	牡	

四 飼 養 管 理  
A 飼 養 方 法

飼 料 品 ノ 種 類

- 濃厚飼料 大麥、挽割 豊年粕、 蕪、 コブラミール
- 粗飼料 野干草、 青刈玉蜀黍、 同大豆
- 根 菜 類 長蕪菁、 人參、 甘藷、 ビート

濃厚飼料及野干草ハ全部購入ニ依リ、其ノ他ハ當場園圃ノ生産物ニ依レリ

飼 料 給 與 回 數

前記飼料ニ礦物性鹽類ヲ混與シ粉餌トシテ一日三回ニ給與ス

飼 料 給 與 量

別記標準ニヨリ季節年齢体質乳量ニ應ジ斟酌的増減セリ

飲 水

舍内ニアリテハ「ウオーターカッパ」ニヨリ運動場ニ於テハ貯水槽ニ依リ冷水ヲ自由ニ飲用セシム

礦 物 性 鹽 類

炭酸カルチウム、磷酸カルチウム、肝油ノ合劑一日約四十五瓦位食鹽ハ一合ヲ標準トシテ体質季節ニ依リ増減斟酌ス

B 飼 料 標 準

年齢、泌乳能力並發育、營養、嗜好ノ状態ヲ考察シ季節ニ依リ飼料品ノ種類、數量、撰擇、増減ヲ行フト雖モ大体次表ヲ基礎

種 牡 牛	種 牝 牛	乳 牛	十八ヶ月ヨリ	十三ヶ月ヨリ	十二ヶ月ヨリ	七ヶ月ヨリ	六ヶ月ヨリ	三ヶ月ヨリ	役馬
五、五	二、六	四、六	三、〇	二、〇	一、〇	四、〇			
四、〇	二、三	六、五	二、三	二、三	一、五	四、〇			
二、〇	〇、五	二、〇	〇、五	〇、七	〇、五	一			
二、五	一	一、〇	〇、五	一、五	一、〇	二、〇			
一、二	一、〇	二、〇	一、五	二、六	一、二	五、二			
〇、〇	〇、〇	〇、〇	〇、〇	〇、〇	〇、〇	〇、〇			
〇、〇	〇、〇	〇、〇	〇、〇	〇、〇	〇、〇	〇、〇			
〇、〇	〇、〇	〇、〇	〇、〇	〇、〇	〇、〇	〇、〇			

C 犢哺育標準

人工哺育法ニ依リ哺育シタルモ事業當初ニシテ乳製品ノ加工充分ナラザリシヲ以テ大部分ヲ全乳飼育トセリ  
其ノ標準次表ノ如シ

性	第一週	第二週	第三週	第四週	第二月	第三月	第四月	第五月	第六月
---	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

牝	牡
八一二	八一二
一一一四	一一一四
一五一八	一五一八
二〇一五	二〇一五
二〇一二	二〇一二
一八一〇	一八一〇
一六	一六
一四	一四
一二	一二
一三	一三
〇八	〇八

D 管理方法

運動 種牡牛ハ天候ノ許ス限リ毎日一時間乃至二時間ノ牽運動ヲ課シ、一定ノ場所ニ繋留シ、自由ニ運動セシメタリ

牝牛並犢牛ハ天候ノ許ス限リ搾乳又ハ飼料給與ノ場合ヲ除クノ外午前八時ヨリ午後五時迄運動場ニ放チ自由ニ運動セシメ尙午後三時ヨリ五時迄ノ間ニ於テ約三十分間牽運動ヲ行ヒタリ

搾乳 泌乳量ニ應ジ一日二回乃至四回トセリ但シ乾乳期以前ニ於テハ一日一回トセリ

削蹄 生後二、三箇月ニシテ第一回ヲ行ヒ、春秋二回必要ニ應ジ之ヲ行ヒタリ

剔毛 二週一回ノ標準ヲ以テ尾房ヲ除ク尾毛ヲ剔除ス 搾乳中ノモノハ乳房ノ附近ヲモ剔毛セリ

舎内清拭 舎内ハ毎朝掃蕪ヲ搬出シ(牝牛舎ニアリテハ床板ヲ除ク) 清水ヲ以テ洗滌シ夜間ハ敷藁ヲ給與ス

牛舎ハ比較的最近ノ設備ヲ施セルヲ以テ換氣並温度ノ調節佳良ナルモ、冬季ハ特ニ細心ノ注意ヲ拂ヒ藁藁ヲ増給シ夏期

ハ運動場ノ周圍並舎内ニ撒水シテ清涼ニ努ム

衛生 日常各家畜ノ衛生状態ヲ視察シ殊ニ其ノ排糞排尿鼻滴ノ有無ハ此細ニ注意セリ

其ノ外特ニ行ヒタル衛生事項次ノ如シ

牛舎消毒 三月初旬牛舎全般ニ亘リ之ヲ行フ

豫防注射 七月種牛入場ニ當リ炭疽豫防ノ爲血清注射ヲ行フ

未經産牛ニハ傳染性流産豫防液ノ注射ヲ行フ

五牛 乳

A 乳牛能力

本年度分挽セルモノ四頭ニ付月別生産乳量並最高最低日量及平均脂肪率ヲ示セバ次ノ如シ

ホリウツド オীগスター 昭和四年五月十五日第三産分挽

月別	生産乳量 <sup>肝</sup>	最高日乳生産量 <sup>肝</sup>	最低日乳生産量 <sup>肝</sup>	平均脂肪率%	備考
七月	一四三、六	二七、〇	二一、七	三、四	七月二十六日ヨリ
八月	六五三、二	二二、二	一九、三	三、七	
九月	六四八、六	二二、四	一九、九	三、六	
十月	六六一、六	二二、六	一八、七	三、五	
十一月	六五三、五	二二、三	二〇、四	三、七	
十二月	六四四、五	二二、八	一八、七	三、五	
一月	五九四、一	二〇、八	一七、三	三、七	
二月	四九八、〇	一九、七	一五、一	三、八	
三月	五九二、二	二〇、八	一八、〇	三、七	

フアローツチ アイマンロツチ ベツシー 昭和四年五月十五日第二産分挽

月別	生産乳量 <sup>肝</sup>	最高日乳生産量 <sup>肝</sup>	最低日乳生産量 <sup>肝</sup>	平均脂肪率%	備考
七月	一一二、八	二一、二	一五、六	三、〇	七月二十六日ヨリ
八月	六〇三、四	二二、九	一七、三	三、一	
九月	六五六、二	二二、二	二〇、五	二、九	
十月	六四五、五	二二、九	一九、二	三、一	
十一月	五七七、七	二〇、六	一八、一	三、二	
十二月	四九〇、四	一九、〇	一三、五	三、二	
一月	四三〇、〇	一五、六	一二、二	三、四	
二月	三四八、七	一三、二	一〇、二	三、五	
三月	三八四、三	一四、八	一一、〇	三、五	

ホリウツド アリアナ 昭和四年十一月二十三日第三産分挽

月別	生産乳量 <sup>肝</sup>	最高日乳生産量 <sup>肝</sup>	最低日乳生産量 <sup>肝</sup>	平均脂肪率%	備考
七月	七二、七	一二、五	一一、五	三、五	七月二十六日ヨリ
八月	四一〇、二	一五、二	一一、四	三、五	
九月	三五〇、七	一三、二	九、四	三、八	
十月	一八五、五	九、四	三、二	四、一	
十一月	一一〇、五	一七、一	三、〇	四、二	

十二月	十一月	十月	九月
七一、三	六八〇、六	六〇九、二	六五一、九
二七、二	二二、二	二二、九	二二、五
一八、〇	二〇、五	二〇、〇	一九、九
三、四	三、三	三、四	三、五
一八			

アニー ツヴェーデ アント 昭和四年一月第一産分塊

十二月	十一月	十月	九月
一三四、七	三〇一、九	二一一、六	九八、五
一〇、八	一一、一	九、一	六、六
四、〇	九、二	五、六	三、〇
三、四	三、五	三、四	三、六
十二月十七日ヨリ 二回搾乳			

B 搾乳量

月別	ホリウツド オーガスター	フアローツチブイマ フンロツチベツシー	ホリウツドアリアナ	アニーツヴェーデ アント	計
七月	一四三、六	一一二、八	七二、七		三二九、一
八月	六五三、二	六〇三、四	四一〇、二		一、六六六、八
九月	六四八、六	六五六、二	三五〇、七		一、六五五、五

月別産乳量次表ノ如シ

十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	計
六六一、六	六五三、五	六四四、五	五九四、一	四九八、〇	五九二、二	五、〇八九、三
六四五、五	五七七、七	四九〇、四	四三〇、〇	三四八、七	三八四、三	四、二四九、〇
一八五、五	一一〇、五	七二、三	六八〇、六	六〇九、二	六五一、九	三、七八三、六
			一三四、七	三〇一、九	二一一、六	七四六、七
				九八、五	九八、五	九八、五
				一、六六七、五	一、七二六、九	一三、八六八、六

第三章 製 酪

本年度ニ於ケル製酪ハ牛酪ノミニシテ其ノ製造所要乳量一四〇一、五六斤牛酪製造量四二、七七斤ニシテ牛酪一斤所要平均乳量  
ハ三二、八斤ニ當レリ

昭和四年度牛酪製造表 (單位斤)

月別	製造量	製 酪 用 乳 量	製 酪 量	製酪一斤 所要平均乳量
一月	二一七、二一	四五六、八五	五、四〇	四〇、二
二月	四五六、八五	七二七、五〇	一一、〇五	三七、九
三月	七二七、五〇		二五、三二	二九、〇

合計

一、四〇一、五六

四二、七七

二〇

### 第四章 飼料分析試験

本年度供試物ハ主トシテ本場ニ於テ使用シツ、アル購入飼糧及本場生産飼料ニシテ其ノ成績次表ノ如シ

品名	成分		粗蛋白質	粗脂肪	可溶無窒素物	粗纖維	粗灰分	石	灰	磷	酸	備考
	水	分										
豐年粕	一四、六〇%	三四、八〇	〇、九〇	三九、六四	四、七〇	六、一〇						購入飼料
挽割大麥	一一、九九	八、六五	一、九三	七三、〇七	一、六九	二、六七						同
小麥麩	一三、四五	一六、六七	四、六五	四九、八九	九、四五	五、八九						同
カルシウム			六、〇七	六、六八			四六、九二	一〇、四〇				田方郡
野乾草	一五、八六	六、三八	二、三四	三八、八八	三〇、〇二	六、五三		二、七八				駿東郡
レール	二四、六三	五、五二	二、九三	四一、五五	一〇、六六	一四、七一						野
コブラミール	一一、〇九	一〇、二六	一一、六〇	五八、五三	二、九五	五、五七						當場産
												購入見本

### 第五章 農場

當場ノ耕作用地ハ愛鷹山南麓ノ火山灰土ヨリナル平坦地ニシテ、耕耘作業容易ナルモ作土淺ク地下水極メテ高クシテ排水惡

シク、加フルニ灌溉ノ便惡シク、爲ニ夏期旱害ヲ被リ易ク作物ノ栽培ニ適セザリシモ、灌溉、排水ノ工事ヲ施セル結果漸次良好ニ向ヒツ、アリ。

農場總面積二町二反歩ノ内農道、畦畔、及排水溝ヲ除キタル、作地面積一町七反六畝ナリ。

#### 一 飼料作物ノ栽培

當場ニ於テ飼料作物ノ栽培ヲ始メタルハ昭和四年四月ニシテ當時ハ未ダ家畜ヲ飼養シ居ラザリシ爲、堆肥、厩肥ヲ施用シ能ハズ充分ナル成績ヲ擧ゲ得ザリシハ遺憾トスル所ナリ、其ノ狀況次表ノ如シ

各作物栽培明細表

作物	種別	作付反別	播種期	反當播種量	畦畔株間	堆肥	過磷酸	硫酸	加硫安	人糞尿	收穫期	反當收量
青刈玉蜀黍	ホワイト	五反六歩	四月中下旬	六反	三反	無	五反	一反	一反	八反	七月下旬	二千九百〇〇
青刈大豆	黒石	三反五畝	四月中下旬	五反	二條	無	五反	一	一	一〇反	七月下旬	二千四百
青刈燕麥	ゴ	四反二畝	十月下旬	五反	二條	無	一〇			八反	九月下旬	末
紫雲英		一反	九月中旬	三反	散播	無	五			末	末	末
レール	エツケン	一反二畝	十月中旬	苗床ニテ	二、五反	一、五反				一	一月ヨリ	千五百三十
レール	ドレツド	四畝	九月上旬	二反	二	一五	五			八	三月ヨリ	千三百八十五
蕪菁	長八	三畝	九月中旬	三畝	二	一五	六			一〇	十一月	八百六十一

二二

收實用大麥	チモセー	クロバースウキト	クロバークソリム	クロバークサ	ルーサン米	甘藷源氏	八 參ホワイヤム	燕 菁白長六
一	一	一	一	一	一	一	三	六
二反二畝十一月下旬	畝	畝	畝	畝	畝	畝	畝	畝
五升	六	五	五	五	六斤	一	二升	四
二	"	"	"	"	散	二	二	二
條	"	"	"	"	播	〇・八	條	一
三								五
百								六
八								一〇
末	末	末	末	末	末	十一月末	末	月
末	末	末	末	末	末	蔓九百七十五	末	根
末	末	末	末	末	末	千三百九十五	末	二千三百七十五

二 飼料作物ノ栽培ニ關スル試驗

飼料作物ノ栽培上其ノ品種ノ適否收量ノ多少及品質ノ優劣ハ直接畜産經營ノ成果ニ及ボス影響尠カラザルヲ以テ本年度當場ニ於テハ左記ノ試驗ヲ行ヒタリ。

A 青刈玉蜀黍ノ品種比較試驗

ホワイトデントコーン、エロー、デントコーン、ヲ比較栽培シタル成績次表ノ如シ

區名	品 種 別	反當播 種量	收穫期	反當生草收量	備 考
1	ホワイト、デントコーン	五升	七月下旬	三、〇八〇Kg	各、四月下旬畦幅三尺ノ條播
2	エロー、デントコーン	五	同	二、七〇〇	肥料ハ反當過磷酸石灰五貫元肥トシ人糞尿一〇荷五月下旬追肥
3	ホワイト、デントコーン	五	同	二、九三〇	
4	エロー、デントコーン	五	同	二、六〇〇	

概評 「ホワイト」ハ「エロー」ニ比シ稍々優ルモ尙繼續試驗ヲ行ヒ之ヲ確メントス

成績

B 青刈大豆ノ播種量ノ收量ニ及ボス試驗

區名	品 種 別	反當播 種量	收穫期	反當生草收量	備 考
1	黒 千 石 三 號	五升	七月上旬	二、七三〇Kg	四月中旬畦幅二尺條播トシ肥料ハ反當過磷酸石灰五貫元肥トシ五月上旬人糞尿一〇荷追肥トシテ施用ス
2	同	六	同	二、二〇〇	同
3	同	七	同	二、六四〇	

概評 右表ニ見ル如ク未ダ正確ナル試驗成績ト云ヒ難ク尙回ヲ重ネテ之ヲ確メントス

三 厩肥ノ肥効試驗

農業經營上支出ノ主要部分ヲ占ムル肥料代ハ家畜飼養ニ依リ生産セラル、厩肥ノ施用ヲ以テ減少サレツ、アリ。當場ニ於テ

ハ牛舎ヨリ生産セル厩肥ノ肥料的價值ヲ知ラントシテ、本縣ニ廣ク栽培セラレツ、アル各種作物、果樹類、ニ對シテ肥効試驗ヲ行ハントス。

本年度供試作物トシテ梨樹ノ植付ヲナセリ、明細次表ノ如シ

品名	種類	本數	反別	植付期
長十郎	三〇本			三月中旬
今村	五		混植トシ六畝	同
金龍	五			同

四農馬

本場ノ農耕用馬匹ハ一頭ニシテ次ノ如シ（本年十一月三島重砲兵第三聯隊ヨリ拂下）

名	號	種類	毛色	年	齡	産地
橫	輕	雜	栗	毛	大正七年産	秋田縣北秋田郡大館町

第六章 雜件

A 職員出張

用務	技師		技手		主事補		助手		手備員	
	縣内	縣外	縣内	縣外	縣内	縣外	縣内	縣外	縣内	縣外
事務打合せ	二六	二九	一七	二四	一〇	一六				
畜牛講話			五	八	三					
飼料作物ノ視察			三	四						
乳牛及乳製品視察			七	八						
農事講習會			一							
牛乳品評會審査				九						
種畜購入	八	二	三	二						
農馬購入	一〇	四	〇	四						
畜産共進會視察			二							
畜牛實地指導	一	一	四							
乳價協定	二	三								

B 質疑應答

乳牛ノ使用管理其他畜産業一般ニ關シ來場又ハ書面ニテ指導ヲ求ムルモノ頗ル多キニ付此等ニ對シテハ其都度口頭若ハ書面ヲ以テ應答、指導セリ



附

錄

C 來 觀 者

昭和四年五月二十八日開場式舉行以來來觀者日ヲ逐フテ多キヲ加ヘ昭和五年三月三十一日迄、來觀人員三千七百九十人ニ及  
ス

静岡縣規則第一號

昭和四年十月三日

静岡縣知事 白根竹介

静岡縣種畜種禽並種卵拂下規則

- 第一條 種畜場ニ於テ生産シタル種畜、種禽並種卵ノ拂下ハ本規則ノ定ムルトコロニ依ル
- 第二條 拂下クヘキ種畜種禽並種卵ノ種類拂下價格及數量ハ種畜場長之ヲ定メ公告ス
- 第三條 種畜種禽又ハ種卵ノ拂下ヲ受ケムトスル者ハ別記様式ニ依リ出願スヘシ但シ團體ニ在リテハ關係豫算書ヲ添附スヘシ
- 第四條 種畜場長前條ノ出願ヲ承認シタルトキハ左ノ事項ヲ指定シ之ヲ出願人ニ通知スヘシ
  - 一 拂下クヘキ種畜種禽ノ種類、生年月日、性、頭數又ハ羽數、種卵ニ在リテハ種類及數量
  - 二 拂下價格及其ノ納付期限
  - 三 引渡ノ場所及期限
- 第五條 出願人前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ指定期限内ニ拂下代金ヲ納付シ種畜種禽又ハ種卵ノ引渡ヲ受クヘシ  
前項ノ手續ヲ爲ササルトキハ承認ハ其ノ効力ヲ失フ但シ既納ノ拂下代金ハ之ヲ返還セス
- 第六條 拂下クヘキ種畜種禽又ハ種卵ニシテ前條第二項以外ノ事由ニ依リ引渡ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキハ出願人ノ請求ニ依リ既納ノ拂下代金ハ之ヲ返還ス但シ出願人ハ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス
- 第七條 出願人種畜種禽又ハ種卵ノ引渡ヲ受ケタル後ハ如何ナル事由アルモ拂下代金ノ返還若ハ減額代物ノ交付又ハ損害賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第八條 出願人ノ請求ニ依リ種畜種禽又ハ種卵ノ托送ヲ爲シタルトキハ受託人ニ對スル引渡ヲ以テ出願人ニ對スル引渡ト見做ス前項托送ニ要スル荷造費並運送費ハ出願人ノ負擔トス

第九條 拂下ヲ受ケタル種畜ハ當該種畜場長ノ承認ヲ承クルニ非サレハ引渡ノ日ヨリ牛ニ在リテハ三箇年間豚ニ在リテハ二箇年間之ヲ賣却讓渡又ハ屠殺ヲ爲スコトヲ得ス

第十條 前條ノ期間内ニ於テ其ノ種畜ノ逸走盜難若ハ斃死アリタルトキハ拂下ヲ受ケタル者ハ其ノ旨直ニ當該種畜場長ニ届出ツヘシ但シ血統證ノ交付ヲ受ケタル者ハ之ヲ届書ニ添附スヘシ

第十一條 種畜種禽又ハ種卵ノ拂下ヲ受ケタル者ハ當該種畜場長ノ指示ニ從ヒ其ノ成績ヲ報告スヘシ

附 則  
本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

一何種	種畜(種禽)(種卵)	拂下願
一何種	牡(牝)豚牛	何何頭頭
一何種	種 雞雌雄	何何羽羽
一何種	種用初生雛	何何羽羽
一何種	種用中雛	何何羽羽
一何種	種 卵	何何箇箇

右種畜(種禽)(種卵)御拂下相成度御願候也

年 月 日 住 所  
氏 名 (團體名) 印  
静岡縣立(何)種畜場長宛

静岡縣條例第二號

昭和四年十月三日

静岡縣知事 白 根 竹 介

### 静岡縣種畜種付條例

第一條 種畜場ニ繫養スル種畜ノ種付ヲ受ケムトスルモノハ本條例ニ依ルヘシ

第二條 種付ヲ受ケムトスル牝畜ハ左記各號ノ資格ヲ有スルコトヲ要ス

- 一 牛ニ在リテハ年齢滿十八箇月以上、豚ニ在リテハ年齢滿十箇月以上ナルコト
- 二 血統明確ニシテ體質優良ナルコト
- 三 管理良好ニシテ惡質ノ疾病又ハ惡癖ナキコト

第三條 種付ヲ出願セムトスルモノハ第一號様式ニ依ル願書ヲ差出スヘシ

第四條 種付ヲ受クヘキ牝畜ニ對シテハ當該種畜場ニ於テ豫メ其ノ検査ヲ行ヒ之ニ合格シタルトキハ第二號様式ノ種付合格證ヲ交付ス

前項合格證ノ有効期間ハ第一回交尾ノ日ヨリ百日間トス但シ第二條第三號ノ資格ヲ喪失シ又ハ交尾三回ニ上ルトキハ其ノ効力ヲ失フ

第五條 前條ノ検査ニ合格シタル牝畜ニ對シ種付ヲ受ケムトスルトキハ所定ノ種付料金ヲ前納シ種付合格證並種付料金受領證

ヲ當該係員ニ提示スヘシ

前項種付料ノ金額ハ種畜場長左ノ範圍ニ於テ知事ノ認可ヲ經テ之ヲ定メ公告ス

- 一 牛ニ在リテハ 五圓以上五十圓以下
- 二 豚ニ在リテハ 一圓以上十圓以下

既納ノ種付料ハ如何ナル事由アルモ之ヲ返還セス

第六條 種付ニ依リ牝畜ニ損害ヲ生スルコトアルモ所有者又ハ管理者ハ其ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第七條 種付ヲ受ケタル牝畜ノ所有者又ハ管理者ハ當該種畜場長ニ對シ其ノ仔畜ノ血統證ノ下付ヲ申請スルコトヲ得

第八條 種付ヲ受ケタル牝畜ノ所有者又ハ管理者ハ左記第一號第二號又ハ第四號ノ場合ニ於テハ十日以内ニ第三號ノ場合ニ於

テハ最終ノ種付ノ日ヨリ牛ニ在リテハ五箇月豚ニ在リテハ三箇月以内ニ當該種畜場長ニ届出ツヘシ

- 一 畜種分娩前讓渡シタルトキハ其ノ年月日讓受人ノ住所氏名、斃死若ハ屠殺逸走盜難等ノ事故ヲ生シタルトキハ其ノ年月日
- 二 仔畜ヲ生産シタルトキハ其ノ年月日、名號、性、頭數、毛色特徴ヲ、死産シタルトキハ其ノ年月日、性、流産シタルトキハ其ノ年月日
- 三 受胎セサルトキ
- 四 分娩シタル仔畜ヲ讓渡シタルトキハ其ノ年月日並價額、讓受人ノ住所氏名、斃死若ハ屠殺逸走盜難等ノ事故ヲ生シタルトキハ其ノ年月日

第九條 種畜場長必要ト認ムルトキハ其ノ仔畜ヲ指定ノ場所ニ牽出サシメ調査ヲ行フコトアルヘシ

第十條 第八條ノ届出ヲ怠リ又ハ第九條ノ命令ニ應セサルトキハ第七條ニ依ル血統證ノ下付ヲ爲ササルコトアルヘシ

附 則

本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號様式

種 付 願

- 一 種 類
  - 一 名 號
  - 一 生 年 月 日
  - 一 産 地
  - 一 毛 色 特 徴
  - 一 血 統
  - 一 體 高 (豚ニ在リテハ體重)
- 右ニ對シ貴場繫養ノ種牝牛 (種牝豚) 種付相成度御願候也
- 年 月 日 住 所

所有者氏名 (管理者氏名) 印

静岡縣立 (何) 種畜場長宛

第二様式 (表面)

第 號

種付合格證

郡市町村

所有者又ハ管理者氏名

種付牝畜

種類

名號

生年月日

毛色特徵

體高 (牛豚)

種牡牛 (豚)

名號

種付	月	第 一 回	第 二 回	第 三 回
	日	日	日	日
	年	月	月	月

年 月 日

静岡縣立(何)種畜場印

(裏面)

種畜種付條例抜萃

第五條 (條文)

第六條 (條文)

第七條 (條文)

331  
206

昭和五年七月十九日印刷  
昭和五年七月二十日發行

靜岡縣立沼津種畜場

沼津市三枚橋  
電話沼津七一〇番

沼津市城内字条内四五〇

印刷人 長 澤 茂 雄

沼津市城内字条内四五〇

印刷所 耕文社印刷所

終

